



新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、日頃から協会運営にご理解ご協力を賜り、衷心より厚く御礼を申し上げます。

さて、完全に終息したかに思われた新型コロナウイルスは、昨年 1 月からまたも勢力を盛り返し、盛衰を繰り返しながら迎えた第 7 波では、8 月 19 日に全国で過去最多となる 261,004 名の新規感染者が確認され、11 月には第 8 波に突入するなど、今なお終息の目途は立っておりません。昨年秋口には「全国旅行支援」が実施されるなど、一時的にはアフターコロナの様相を呈したものの、生活、産業、経済ともにコロナ禍の閉塞感から抜け出すことが出来ない 1 年だったのではないのでしょうか。

こうした中、2 月には冬季五輪が北京で開催され、日本選手団においてはスキージャンプの小林陵侑選手（八幡平市出身）が獲得したメダル 2 個（金・銀、各 1 個）を含め過去最多となる 18 個を獲得した他、メジャーリーグでは奥州市出身の大谷翔平選手（ロサンゼルス・エンゼルス所属）が、108 年ぶりとなる投手で二桁勝利、打者で二桁本塁打を同時に達成する偉業を成し遂げた他、大船渡出身の佐々木朗希選手（千葉ロッテマリーンズ所属）が 2 年ぶりとなる完全試合を達成するなど、スポーツを中心に多くの明るい話題もありました。

一方、運輸業界におきましては、4 月、国内最悪の海難事故となった知床観光船沈没事故が、また 10 月には静岡で観光バス横転事故が発生し、あらためて輸送の安全とそれを支える運行管理の重要性に光が当たりました。また、我々トラック運送業界においては、貨物需要の増加や運賃改善の動きが見られた一方で、2 月に開始されたロシアのウクライナ侵攻の影響が、高止まりを続けた燃料価格に更なる追い打ちをかけたことで、輸送原価が上昇し営業収益を圧迫するなど、多くの事業者では長引くコロナ不況と相まって極めて厳しい経営環境が続きました。

今年こそはコロナ禍が終息し人々の暮らしや経済・産業が本来の姿を取り戻すと共に、世界各地の紛争が解決し平和で穏やかな 1 年になることを切に望むところです。

さて、本年も岩手県トラック協会では、交通事故防止、労働災害防止、適正化事業の推進によるコンプライアンスの徹底など、トラック運送事業の振興を図り、地域社会に積極的に貢献するため、令和 5 年の事業運営について、以下の考え方を基本として取り組んでまいります。

1. 交通事故防止の取り組み（事故件数等は令和 4 年 11 月末現在の数値です。）

（1）車輪脱落事故の根絶

大型トラックの車輪脱落事故はここ数年増加傾向にあり、岩手県内のトラック車両については、令和元年度から令和 3 年度までの間に、東北運輸局管内最多となる 38 件の事故が発生し、内 18 件が会員事業者の車両で極めて憂慮すべき状況となっております。こうした状況を踏まえ、車輪脱落事故防止については、夏・年末の安全点検パトロールの最重点項目の一つと位置付け、タイヤ交換時の適切なトルクでのナットの締め付け及び、適切なタイミングでの増し締めと、日常点検の確実な実施等、取り組みの強化を要請してまいりました。会員各社のご尽力により、令和 4 年度は 1 件の発生に留まっております。トラック運送事業者としてあってはならない事故ですので、引き続き適切な対応を宜しくお願いいたします。



（公社）岩手県トラック協会
会長 高橋 嘉信